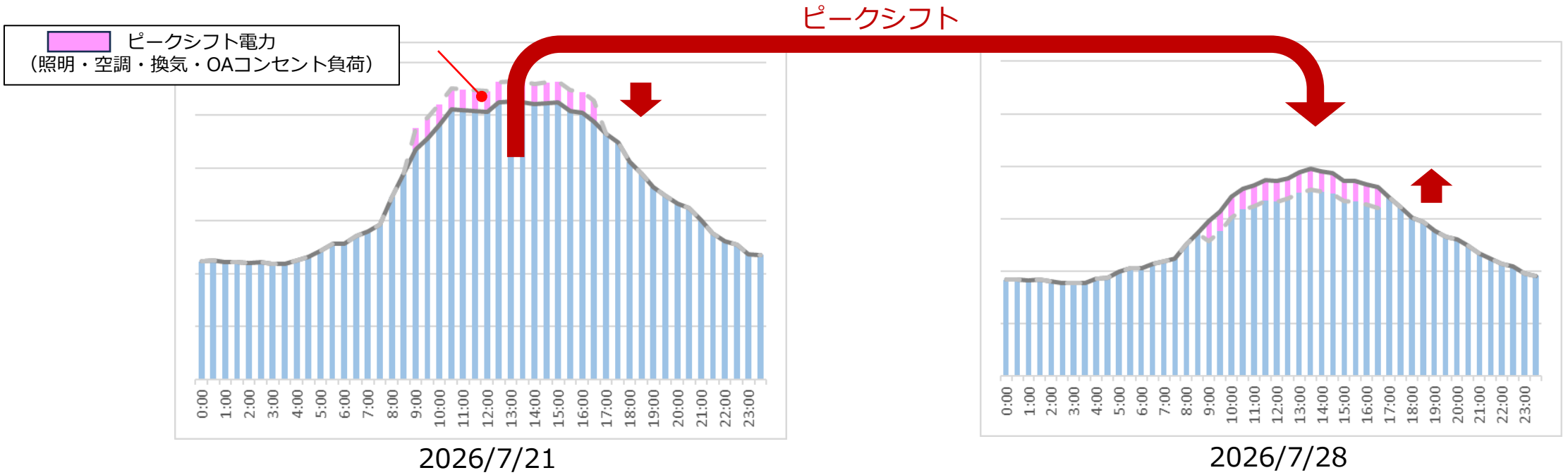
早稲田大学－西早稲田キャンパスにおける「夏季電力需要ピークシフト実験」の結果

- 西早稲田キャンパス52号館において、真夏の電力需要ピーク期間を避ける形で、対象科目の期末試験日を7/21から7/28へ移行し、電力需要への影響を検証。
- 今回、東京電力HD経営技術戦略研究所で設置した計測装置により需要抑制効果を測定。



今回の対象教室である52号館204教室の電力負荷は10kW程度（照明・空調・換気・OAコンセント）で、教室未利用時には全シャットダウンによりほぼ0kWと出来ることを確認。西早稲田キャンパス全体でのピークシフトポテンシャルは「10kW÷204教室定員数201名×3限目全体定員7,894名＝**計390kW程度**」となると想定。

猛暑時における学生の負担軽減、最大需要電力の抑制による大学側電気料金上昇抑制、国内の電力ピーク抑制に寄与